

# 第16回OEFF名誉委員長 ベントウーラ・ポンスに決定！

## 第16回大阪ヨーロッパ映画祭名誉委員長

ベントウーラ・ポンス / Ventura Pons

監督・脚本家・プロデューサー／スペイン

21歳から舞台演出家としてスタートを切り、シェークスピアをはじめ多数の舞台を制作。1978年初の長編映画

“Ocaña, retrat intermitent”で彗星のごとくスペイン映画界にデビュー。85年には自ら映画会社Els Films de la Ramblaを設立しカタロニア映画界で一躍トップに躍り出た。彼の制作した18本中実に16本の作品が同社で制作されている。類いまれな雰囲気はとりわけ若い世代に人気を得、95年には第2回大阪ヨーロッパ映画祭で来日。『男と女のいる風景』（当時の仮題『それぞれの理由』）が上映され、ニューヨークやロサンゼルスでアメリカン・フィルム・ライブラリー主催の回顧展が開催されている他、多くの国際映画祭で話題となった。同年、ベントウーラ・ポンス氏はカタロニア政府から国民映画賞が贈られている。この頃から、カタロニア出身作家のドラマチックでかつコミカルな原作を映画として描いていく方向に転じ、『What It's All About』のクイン・モンゾーや、『Caresses, To Die』のセルジー・ベルベルなどの作品を原作としてきた。今回大阪ヨーロッパ映画祭で上映する『隣人』もセルジー・ベルベルの舞台劇が原作となっている。



第2回（1995）来日の際、京都にて。



『死ぬこと、あるいはそうでないことをめぐって』



『男と女のいる風景』

## <主な監督作品>

- 2008 Forasters (Strangers, 『隣人』)
- 2007 Barcelona (un mapa, Barcelona (a map))
- 2007 La vida abismal (Life on the Edge)
- 2006 Animals ferits (Wounded animals, 『密会1723号室』)
- 2004 Amor idiota (Idiot Love, 『女が男に落ちるとき』)
- 2003 El gran Gato (The great Gato)
- 2002 Food of Love
- 2001 Anita no perd el tren (Anita Takes a Chance)
- 2000 Morir (o no) ... (To Die (Or Not), 『死ぬこと、あるいはそうでないことをめぐって』)
- 1999 Amic/Amat (Beloved/Friend, 『最愛の人/友人』)
- 1998 Carícies (Caresses, 『愛撫』)
- 1997 Actrius (Actresses)
- 1995 El perquè de tot plegat (What it's All About, 『男と女のいる風景』(第2回映画祭『それぞれの理由』で紹介))
- 1993 Rosita, please!
- 1992 Aquesta nit o mai (Tonight or never)
- 1991 Què t'hi jugues, Mari Pili? (What's your bet, Mari Pili?)
- 1989 Puta misèria! (Damned Misery!)
- 1986 La rossa del bar (The Blonde at the Bar)
- 1981 El vicari d'Olot (The vicary of Olot)
- 1978 Ocaña, retrat intermitent (Ocaña, an intermittent portrait)

《お問合せは…》 大阪ヨーロッパ映画祭 広報：本多／音居まで  
TEL:06-6882-6213 Fax:06-6882-6212  
メール：[press@oeff.jp](mailto:press@oeff.jp) HP: [www.oeff.jp](http://www.oeff.jp)